

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193300015		
法人名	有限会社しましまハウス		
事業所名	しましまハウス河合		
所在地	岐阜県飛騨市河合町稲越491番地2		
自己評価作成日	平成24年9月2日	評価結果市町村受理日	平成24年11月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kan=true&JigyosyoCd=2193300015-008&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成24年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ①四季に応じ、タクシーを利用して昼食会を兼ねた外出を行っている ②入居者同士が「ちょっと近所で立ち話」的な生活が過ごせる様、環境作りにも努めている ③芋の皮むきや山菜の処理する様子を写真にして掲示し、それを繰り返し見て話題にしたり、歩行練習の場として利用している ④慣れ親しんだ食材での食事内容、リクエストメニューのおやつ作り等を行っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>一年の1/3は、雪の中での生活となる環境で、冬季は通勤も大変であるが、全職員が一丸となって努力している。他事業所の取り組みを参考に、ホームにも取り入れてみようと、管理者の指示ではなく、職員全員で協議し、同じ方向を目指して取り組む姿勢がある。申し送りノートは読みやすく、直近の連絡事項はボードに張り紙をするなどの工夫で、職員間の情報の共有が確実に行われている。排泄の自立支援や、食材に活用する山菜の下処理をみんなで力を合わせて行ったりすることが、結果的に利用者の力を引き出し、利用料の負担軽減にもつながり、安くて質の高いサービスを提供できるよう歓待の精神で取り組んでいるホームである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らして いる (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生き とした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出か けている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむ ね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不 安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービス におおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔 軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽しく余生を過ごしたい」「やりたい事をわがままと捉えずサポートしたい」という理念の基に住み慣れた家で生活していると思われる様な家庭的なホームを目指し日々取り組んでいる。	利用者が暮らしてきた生活の継続を「家庭的なホーム」と捉え、その生活の基盤が地域にあるという思いが、地域と共という表現で理念の中に込められている。理念に沿った実践が出来ているか、管理者と職員で常に話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に入会し出きる限りの範囲で参加を行っている。ホームのイベント、推進会議、家族会、避難訓練等の参加をお願いするなどして日常的に交流を図り、災害時には、地域と相互に協力出きる関係を築いている。	災害時には地域との協力体制が構築されている。ホーム前の広場の草取りや雪かきなど、依頼しなくても手を貸してくれるつながりが出来ている。また、隣地の体育館で催し物がある時には、ホームの利用者も見学し、地域の人との交流の場になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や御家族がホーム内の行事等に参加された時や施設見学に見えた時などに、認知症について理解して頂ける様に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営報告をする事でサービス状況を知って頂き次のサービスに繋げている。又改善課題にたいして皆さんからの意見を頂き改善点を検討しサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回の頻度で開催されている。行政、民生委員、地域代表、家族の参加があり、議事内容は毎回記録されている。当日の参加者には利用者の様子も知ってもらう機会になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議(隔月)に参加して頂き、その時々情報を交換して指導を受けている。又行政主催の研修会、交流会には積極的に参加するなどして連携、協力関係に努めている。	行政主催の研修や交流会には積極的に参加し、連携体制の足掛かりとしている。家族の高齢化や諸事情で、将来的には、利用者の権利擁護をホームとしてどう対応するのかを目下の課題としている。	将来的な課題である利用者の権利擁護の手立てとして、後見制度などの活用方法を市に相談できるよう関係の構築に期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い、職員の意志を高めて、拘束をしないケアに取り組んでいる。危険回避のため、やむを得ない場合は、家族と同意書をお互いに行っている。	身体拘束をしないケアの学習会を行い、その実践に取り組んでいる。玄関は解放されており、利用者の出入りは自由である。周辺は交通量の少ない環境であり、一人で出て行く場合もあるが、必ず職員が見守り同行をし、安全への配慮をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて、虐待防止について学び、職員間の情報交換において、見過ごしを防いでいる。特に言葉使い等、責任ある言動に取り組んでいる。		

岐阜県 しましまハウス河合

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内の研修時、資料を集め、勉強会を開いている。「本人の尊重」「利用者本位」「自立支援」といった基本理念を守るため勉強している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一部料金改定時には、本社より再契約確認をしている。新規契約時には個々の消耗品の支払い方法等、説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議・家族会・家族の訪問時などに意見、要望を聞き、入居者・ご家族の思いを大切にしながら話し合いを重ねケアに活かせる様努めている	介護計画見直しの確認作業のために、どの家族も3ヶ月に1回の来訪があり、その折に家族から要望や意見を引き出している。代表者も毎月、利用者の居室を巡回し、利用者の声を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや月例ミーティングで職員の思い・考え・意見の交換をし定期的に訪れる代表者に伝えて、早急に話し合っている	管理者からの指示で職員が動くのではなく、毎日のミーティングで職員の意見を聞き、職員全員が同じ方向を目指す姿勢で取り組んでいる。話し合われた内容は代表者に報告し、運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎日のミーティングや月例ミーティングで職員の思い・考え・意見の交換をし定期的に訪れる代表者に伝えて、早急に話し合っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルアップを目指し、勉強会への参加や資格取得の必要経費も認めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への参加、ケアマネ会議への参加等 同業者と交流する機会を作り、サービスの質を上げるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談やアセスメントで本人や家族と接しながら、気持ちや思いを受け止め、一緒に過ごす時間を多くし、信頼しあえる関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困り事や、不安を聞き取り、要望を受け止める様努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族に今何が必要かを聞き取り、共に対応して行けるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯、畑仕事を職員と一緒にいき、共に暮らしていると感じる生活作りを心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便り、電話、施設来所された時等、施設での様子を家族に伝え、日々の情報を共有して共に支えて行く関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方から野菜を頂いたり、地元の警察官が立ち寄り一緒にお茶を飲み語って頂いています。地元のタクシー会社の協力を得て馴染みの場所に出かけ、地域とのつながりを途切れない様にしています	家族の諸事情などで、必要な時以外は足が遠のく家族もあるが、利用者の元気な様子を伝える通信を家族に送り、訪問のきっかけになるよう工夫をしている。また、来訪者のためにバスの時刻表も備えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で過ごせる場所を作り、利用者同士が関わり合い、支えあえる様支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームでの暮らしぶり等の情報を伝え、その日から本人が戸惑わない様支援している。又、いつでも相談して頂けるような関係作りにも努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの日常の場面で、言動や表情から思いを把握している。困難な場合は、傍らに寄り添い、穏やかな笑顔を引き出すよう努め、優しくゆとりを持ち、そのひとりしさを大切にケアに努めている。	介護の基本はサービス精神であり、もてなしの心が大切であるという姿勢で、常に利用者一人ひとりの行動、言動、表情から利用者の思いの把握に努めている。毎日日記を書く習慣を支援しており、その日記の内容から思いを推測している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族やケアマネさんより入居前の生活環境、生い立ち等、聞き取りを行っている。入居後も会話の中からや、面会にみえたかたから情報を頂きサービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の生活スタイル、職員との会話や心身状態を介護記録に残す事で職員間で情報を共有し把握できるようにしている。又、ほぼ毎日行っているミニミーティングでも情報を伝え合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例のケア会議で、介護記録を検証し、本人、家族や協力医の意見を取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。本人の状況を観察しながら、必要に応じて見直しを行っている。	管理者がケアマネジャーを兼ねており、ケア会議を通して、家族、協力医、看護職員等の意見も反映し、現状に即した介護計画の作成が図られている。夜勤だけ業務に就く職員が数名いるが、申し送りや詳細な記録のやりとりで介護計画の見直しに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の日課表を毎日午前・午後・夜間と記録し、職員間で情報を共有した上で日々のミーティング等で意見交換し日頃のケアに活かし、また介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりにそった支援(散歩・畑仕事・山菜取り...)を心がけている。利用者の希望に沿った柔軟な支援を臨機応変に取り組んでいる。		

岐阜県 しましまハウス河合

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによるイベントには全員で掃除、準備等に取り組み、バラ園に出かけたり、庭での流しそうめんを行っている。又防災訓練に参加し地域の方との交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医の確認、把握を行っている。ホームでは隔週にて提携医の往診を行っている。又緊急時には往診医に指示をうけ転院、受診して頂く。	月2回の協力医による往診があり、全員の利用者が受診している。眼科、整形外科、認知症専門医などは、かかりつけ医を継続しており、その受診は家族が対応し、その時の情報は看護職員が把握している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフの中には看護師がおり、常に情報を交換し早急に状況を把握しいち早く家族と医療機関に連絡を取り対処している。又個々の健康管理も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、家族と常に情報交換に努め状態把握を行い話し合っている。地域の連携室との関係も持ち退院支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や事あるごとに、看取りや重度化した場合におけるホームの方針を文章により家族に説明し、同意書を交わしている。また往診医から利用者の状態、変化時の説明や指示を受ける機会をもち、家族との連携・話し合いをする場を設けている	ホームでは看取りや重度化の対応を行わない方針を示しており、入居時点で家族に説明している。転移の見極めは医療機関の相談室とも連携し、家族と話し合っている。出来るだけ利用者が重度化にならないよう、日々、生活の中にリハビリ要素を取り入れたケアに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	予測出きる急変に対しては、慌てずに確実、活適切な行動を職員同士で取れるよう取り組んでいる。全ての職員が定期的に訓練を行い活かせる様勉強会を今後も続けて行く。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て通報訓練・避難誘導・地震に対する対処などを行い、地域の方、民生委員、行政の方々の参加・協力を得ている。又行政主体の防災訓練、夜間想定避難訓練を行っている。	年2回、消防署の協力の下、防災訓練が行われている。9月には県・市の行政主催で、ホーム裏法面の土砂災害を想定した訓練が行われ、車いす利用者などの誘導にかかる時間も測定した実践的な取り組みがあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りを尊重しプライバシーを損ねない様に、日々内部研修を行い全職員の意識を高めながら支援している	一人ひとり何が出来るかを探り、出来なくなった事より出来る事を褒め、その人のプライドを尊重する接し方を、どの職員も共通の認識として持って支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いやその人の決定力を大切にするため、日頃から利用者の表現できない事などを日々の密接な関係、馴染みの中から察し、引き出せる様支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合、スケジュールに当てはめるのではなく、一人ひとりのペースに合わせた暮らしの支援を行うよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人・家族の希望に沿った理容、美容に努めている。又服装も本人のこだわり・好み・持っている力にそって支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭で季節の野菜を育て、収穫を喜び、メニューに取り入れ、食材を話題にしながらにぎやかに食事している。野菜の下準備、配膳、下膳を職員と一緒にやっている。その日の朝メニュー書きをして頂き、その日の食事が楽しみになるよう協力して頂いている	庭で収穫した野菜や、地域の人からの差し入れ、職員の畑で採れた野菜などの食材を活用し、準備から片付けまで、いろいろな場面で利用者の出番がある。十分な量の食事を誰れひとり残すことなく、職員と一緒に、楽しい食事の時間を共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量を把握し、体重管理を行い、栄養状態を見る目安にしている。また水分補給にも気を配り支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは一人ひとりに応じた声かけ・見守りを行い、口腔内の清潔に努めている。義歯洗浄、洗面器等の消毒、清掃も日を決めて実施している		

岐阜県 しましまハウス河合

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者に合わせ、出きる限りトイレ誘導することを、職員間で意識づけ、自立を支援している。個々の状況にあわせ、パットの種類を使い分け、動きを妨げない工夫をしている。	一人ひとりの排泄リズムを把握し、トイレに誘導している。トイレでも利用者の出来ることを促す声掛けが行われ、自立支援に取り組んでいる。パットの種類の使い分けや使用量が減ってきたことで、ホームの汚物処理量も減っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	前日の排便状況を把握し、水分摂取回数を多くしたり、戸外で過ごした後などは水分の摂取に気をつけている。また食事内容の工夫、体操、歩行練習といった身体を動かす等を行い予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回行い、利用者の健康状態に合わせて入浴介助を行う。広い浴槽に菖蒲を入れ季節を楽しんでいる。入浴を好まない人は、シャワー浴や足浴も組み合わせ、支援している。	入浴は週2回を基本にしており、これまでは午後が入浴時間であったが、研修会で得た事例を参考に、午前1回・午後1回と時間帯を変更しての取り組みを計画している。広い浴室なので、冬季は湯が冷めない工夫やゆっくり温まってもらう配慮をしている。	研修会で得た情報を、ホームでも取り入れ、改善課題が出れば、皆で考える姿勢であり、まずはやってみようという前向きな取り組みに、今後も期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温を調整し、いつでも休めるようにしている。夜間も睡眠の妨げにならない様に、一人ひとりに合わせた休息の支援に取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は誤薬が無いように、名前、用法、日付けを記入し、1つずつ確認の上、職員が配薬し介助している。症状が変化した時は看護師を通じ主治医の指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で行ってきた畑仕事、山菜処理、掃除、洗濯物のかたづけ等を行い、役割を持ち張り合いのある生活を過ごせる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣周辺を、寺や神社の参拝を兼ねて、散歩している。体力に不安な人は、前庭で外気浴を楽しんでいる。又、年間計画を立て、回転すし、バラ園、紅葉狩り、さくらの花見等を楽しんでいる。	冬季は周辺が雪で覆われてしまう環境にあり、その分、天気の良い日には出来るだけ外に出るよう職員が意識して声掛けしている。これまで利用者全員で外出の楽しみを共有していたが、徐々に無理な人も出てきたため、取り止めた外出もあった。現状を見据えた対応を検討している。	これまでは、職員の努力もあり、利用者全員参加の外出支援を行ってきたが、今後は利用者の身体機能低下など個々の状態にあった支援を検討し、これまでの外出を工夫して継続できるよう取り組みに期待したい。

岐阜県 しましまハウス河合

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所管理のお金については入居時説明合意して頂いている。又外出の際は家族の同意のもとに使える範囲で利用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各家庭の状況を考慮しながら電話・ファックス等を利用し家族・兄弟・姉妹との交流ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所には分かりやすいように絵・文字で掲示し混乱を防ぐように工夫している。季節感を出すために季節行事の写真を掲示している。	入口にはスロープが設けられており、玄関は広く開放的である。季節の花があちこちに飾られている。見やすいカレンダーの掲示、新聞の設置など生活感がある。食堂ホール、畳の上でくつろげる場所、テーブルを囲んで団らんできる場所と、思い思いの場所で過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの席はそれぞれの状態に合わせて、月1回の席替えを行っている。又居室・ホール以外の「いこいの場」をもうけ団らんとして活用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に注意を払い使い慣れた物、慣れ親しんだ椅子を持って来て頂き本人が落ちついて過ごせる様努めている。	職員の支援もあり、持ち込みの私物が整理され、掃除も行き届いて、清潔で明るい居室になっている。持ち込みの衣装タンスは、転倒防止のために上下を分離して使用してもらおうなどの配慮がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守り・声かけ・目からの指示(写真、絵)などで安全で自立できるようにし、介助しすぎることのないよう自立支援に努めている。		